

2027年1月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年9月1日 東

上場会社名 ピープル株式会社 上場取引所
 コード番号 7865 URL <https://www.people-kk.co.jp/>
 代表者（役職名） 取締役兼代表執行役（氏名） 桐渕 真人
 問合せ先責任者（役職名） 財務チーム長（氏名） 本田 いづみ（TEL）03-3862-2768
 半期報告書提出予定日 2026年9月2日 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満四捨五入）

1. 2027年1月期第2四半期（中間期）の業績（2026年1月21日～2026年7月20日）

（1）経営成績（累計）（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年1月期中間期	561	△12.1	△110	—	△114	—	△151	—
2026年1月期中間期	638	△11.1	△176	—	△177	—	8	—

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年1月期中間期	△39.38	—
2026年1月期中間期	1.96	—

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2027年1月期中間期	1,672	1,529	91.5	399.72
2026年1月期	1,810	1,680	92.8	439.03

（参考）自己資本 2027年1月期中間期 1,529百万円 2026年1月期 1,680百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年1月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2027年1月期	—	0.00			
2027年1月期（予想）			—	—	—

（注）2027年1月期の配当につきましては、通期業績見通しと連動して勘案する方針でありますため、年末商戦状況を見極めた上で期末配当予想を発表させていただきます。

3. 2027年1月期の業績予想（2026年1月21日～2027年1月20日）

2027年1月期第3四半期累計期間業績予想（2026年1月21日～2026年10月20日）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第3四半期（累計）	984	△6.1	△108	—	△111	—	△148	—	△38.65

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

（注）当社の通期業績は、年末商戦期間（10～12月）の業績に大きく左右されます。本来通期業績予想を掲げるべきですが、このような玩具市場の特性に鑑み、直近で見通せる次期四半期の予想を掲げさせていただきます。

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2027年1月期中間期	4,437,500株	2026年1月期	4,437,500株
-------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2027年1月期中間期	611,352株	2026年1月期	611,352株
-------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数（中間期）

2027年1月期中間期	3,826,148株	2026年1月期中間期	3,998,723株
-------------	------------	-------------	------------

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間貸借対照表	5
(2) 中間損益計算書	6
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
3. 補足情報	9
カテゴリ別販売の状況	9
① 中間会計期間売上高	9
② 新発売商品及び主なリニューアル商品	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間会計期間における我が国の経済は、個人消費に持ち直しの動きがみられるなど緩やかな回復傾向が続く一方で、物価高騰や緊迫化する中東情勢の影響を注視する状況が続いております。世界経済においても緩やかな持ち直しが続く一方、地政学的リスクの顕在化や金融資本市場の変動等により、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

当社の属する乳幼児用の玩具市場においては市場規模の縮小が続いております。少子化も要因ではあるものの、最大の課題は、子育て世帯の価値観と行動に大きな変化が起きているにも関わらず、現在市場にある商品が消費者のニーズを捉え損ねていることに尽きるととらえております。当社においても厳しい環境が続き、足下では苦戦を余儀なくされておりますが、長期的な視野に立って幼児にとって普遍的で本質的な商品を開発、提供することで、新たに市場創出できる成長機会ととらえ、子どもの好奇心という根源的なテーマを徹底的に追求することで付加価値を生み出し、持続的に提供する「好奇心事業」に取り組んでまいりました。

2025年発売した第1弾「1 curiosity（ワンキュリオシティ）」に続き、当中間会計期間に第2弾として、新ベビー Toy ブランド「Baby curiosity（ベビーキュリオシティ）」を発売いたしました。「Baby curiosity（ベビーキュリオシティ）」シリーズは、当社が40年以上培ってきたこども観察のまなざしを共有するプロジェクト「ピープル赤ちゃん研究所」で蓄積してきた0歳児の好奇心行動に関する気づきから、0歳の好奇心に必要なおもちゃとは？という問いに改めて向き合い、商品化したものです。4月に既存品のリニューアルとなる14品、次いで7月に新商品8品を発売し、合計22品のシリーズとなっております。「なめられ太郎」「魔法のラトル」などリニューアルしたロングセラー品がSNSを中心にシリーズ全体の口コミをけん引し、シリーズ売上は概ね好調なスタートとなりました。

「ピープル赤ちゃん研究所」につきましては、運営する「赤ちゃんをあじわうワークショップ」が「消費者とのタッチポイント強化」にあたる取り組みとして評価され、経済産業省が玩具産業の振興を目的として取り組む「新たな世界を切り開く玩具産業企業20選」に当社が選定されました。

このほか、既存品では構成玩具のピタゴラスシリーズが好調な売り上げを継続しています。「ボールコースター」を中心として根強く消費者の支持を得ており、セット内容の充実した高額品の人気も高まっております。当中間会計期間では親子で遊ぶのに着目した新商品「1歳のファミリーピタゴラス」を発売し売り上げに寄与していますが、今後さらにシリーズを拡充していく計画です。

海外においては、各国の消費環境は厳しく、取引先も在庫リスクをおさえる傾向があり低調ですが、中長期見据えて活動しております。英国現地パートナーとの戦略的連携を強化し、UK市場における展開の加速に取り組むほか、リトアニアの現地パートナーの協力を得て、当社の商品や開発思想を体験できる「1 curiosity（ワンキュリオシティ）」の公開イベントを実施し、現地の母親向けメディアやライフスタイル系メディアに取り上げられました。

当中間会計期間の経営成績は、売上高5億61百万円（前年同期間比12.1%減）、営業損失1億10百万円（前年同期間は1億76百万円の営業損失）、経常損失は1億14百万円（前年同期間は1億77百万円の経常損失）、また特別損失として減損損失37百万円を計上し中間純損失は1億51百万円（前年同期間は投資有価証券売却益を特別利益として計上しており8百万円の中間純利益）となりました。

（中期的な方針）

市場の短期的な変動に左右されることなく、中長期的な成長を見据えた事業構造転換の途上にあり、子どもの好奇心という普遍的な価値を軸に据えた「好奇心事業」を中核とする事業構造への転換を着実に推進してまいりました。2026年から2028年（2027年1月期～2029年1月期）は、既存主力シリーズである「ピタゴラス」「Baby curiosity（ベビークュリオシティ）」「やりたい放題」の三本柱により黒字化を確実なものとする中期計画を推進いたします。

その後2029年以降は、ブランド完成度を高める成長フェーズへ進み、好奇心を中心概念とした独自カテゴリーの確立を目指してまいります。

（カテゴリー別の概況）

当中間会計期間の各カテゴリー別売上高およびリニューアル発売品につきましては、9ページをご参照ください。

（2）当中間期の財政状態の概況

（資産、負債及び純資産の状況）

（資産）

当中間会計期間末における資産合計は、前事業年度末から1億38百万円減少の16億72百万円となりました。

流動資産では、主に固定資産の取得等による現金及び預金の減少により、前事業年度末から1億39百万円減少の15億58百万円となりました。

固定資産では、金型やオフィスフロア削減・改修に伴う備品等有形固定資産の取得の一方、減損処理により、前事業年度末から1百万円増加の1億14百万円となりました。

（負債）

当中間会計期間末における負債合計は、前事業年度末から12百万円増加の1億42百万円となりました。

流動負債では、主に買掛金の増加により、前事業年度末から12百万円増加の1億33百万円となりました。

固定負債では、繰延税金負債の増加により、前事業年度末から0百万円増加の9百万円となりました。

（純資産）

当中間会計期間末における純資産合計は、繰越利益剰余金の減少等により、前事業年度末より1億50百万円減少して15億29百万円となり、その結果、自己資本比率は91.5%となりました。

（キャッシュ・フローの状況）

当中間会計期間末における現金及び現金同等物は、前事業年度末より1億16百万円減少し10億38百万円となりました。主な要因は次の通りです。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前中間純損失の計上に伴い、86百万円の支出となりました（前中間会計期間は2億1百万円の支出）。

投資活動によるキャッシュ・フローは、主に有形固定資産の取得により30百万円の支出となりました（前中間会計期間は1億65百万円の収入）。

財務活動によるキャッシュ・フローは、0百万円の支出となりました（前中間会計期間は3億4百万円の支出）。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

（第3四半期累計期間 業績予測）

中長期的な成長を見据えた事業構造転換の過渡期として、一時的ながら大幅な業績低下から業績回復を目指す途上にありますが、子どもの好奇心という普遍的な価値を軸に据えた「好奇心事業」を中核とする事業構造への転換を着実に推進しております。

「好奇心事業」のひとつである「Baby curiosity（ベビーキュリオシティ）」シリーズでは当中間会計期間に計22品を発売しました。好調な売れ行きとなっており、第3四半期累計会計期間の売上に着実に貢献すると予測しています。これにより下半期の売上高として、ようやく前年を超えるトレンドに移行する見通しとなります。

また、当中間会計期間には、かねてより構想・計画していたオフィスのフロア削減も着工でき、下半期にはこれによる賃借料他固定費の大幅削減が見込まれます。これに加え、これまで以上の広告・販促等の効率化を図ることにより、営業利益段階での大幅な収益改善が見込まれます。

予想値としましては、第3四半期累計期間（2026年1月21日～2026年10月20日）は、売上高9億84百万円（前年同期比6.1%減）、営業損失1億8百万円、経常損失1億11百万円、四半期純損失1億48百万円と予想しております。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2026年1月20日)	当中間会計期間 (2026年7月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,154,565	1,038,663
売掛金	180,266	167,003
商品	321,109	327,250
原材料	19,267	15,467
その他	21,980	9,831
貸倒引当金	△328	△312
流動資産合計	1,696,859	1,557,903
固定資産		
有形固定資産	0	0
無形固定資産	0	0
投資その他の資産	112,880	113,659
固定資産合計	112,881	113,659
資産合計	1,809,739	1,671,563
負債の部		
流動負債		
買掛金	13,465	30,798
未払法人税等	7,212	1,477
その他	100,055	100,546
流動負債合計	120,732	132,822
固定負債		
繰延税金負債	9,220	9,344
固定負債合計	9,220	9,344
負債合計	129,953	142,166
純資産の部		
株主資本		
資本金	238,800	238,800
資本剰余金	162,705	162,705
利益剰余金	1,594,757	1,444,099
自己株式	△337,954	△337,954
株主資本合計	1,658,308	1,507,650
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	21,478	21,747
評価・換算差額等合計	21,478	21,747
純資産合計	1,679,787	1,529,397
負債純資産合計	1,809,739	1,671,563

(2) 中間損益計算書

中間会計期間

(単位:千円)

	前中間会計期間 (自 2025年1月21日 至 2025年7月20日)	当中間会計期間 (自 2026年1月21日 至 2026年7月20日)
売上高	637,991	561,025
売上原価	353,515	308,254
売上総利益	284,476	252,772
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	44,016	27,945
販売促進費	26,304	25,430
運賃	33,591	31,531
役員報酬	31,403	32,903
給料及び手当	50,716	50,387
退職給付費用	7,327	6,456
支払手数料	56,943	43,616
研究開発費	116,053	85,350
その他	94,075	59,209
販売費及び一般管理費合計	460,427	362,827
営業損失(△)	△175,951	△110,055
営業外収益		
受取利息	4	12
受取配当金	480	400
その他	701	105
営業外収益合計	1,185	517
営業外費用		
為替差損	1,653	706
事務所改装費用	-	3,514
その他	485	10
営業外費用合計	2,138	4,230
経常損失(△)	△176,904	△113,769
特別利益		
投資有価証券売却益	184,250	-
特別利益合計	184,250	-
特別損失		
減損損失	-	36,564
特別損失合計	-	36,564
税引前中間純利益又は税引前中間純損失(△)	7,346	△150,333
法人税、住民税及び事業税	1,441	325
法人税等調整額	△1,930	-
法人税等合計	△489	325
中間純利益又は中間純損失(△)	7,836	△150,658

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間会計期間 (自 2025年1月21日 至 2025年7月20日)	当中間会計期間 (自 2026年1月21日 至 2026年7月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益又は税引前中間純損失(△)	7,346	△150,333
減価償却費	24,140	1,527
減損損失	-	36,564
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1,859	△17
受取利息及び受取配当金	△484	△412
為替差損益(△は益)	41	10
投資有価証券売却損益(△は益)	△184,250	-
売上債権の増減額(△は増加)	25,551	13,263
棚卸資産の増減額(△は増加)	△79,088	△2,342
前渡金の増減額(△は増加)	85	-
仕入債務の増減額(△は減少)	△18,496	17,333
前受金の増減額(△は減少)	△5,489	△10,530
その他	31,561	11,386
小計	△200,942	△83,550
利息及び配当金の受取額	484	412
法人税等の支払額	△338	△2,946
営業活動によるキャッシュ・フロー	△200,796	△86,085
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△24,467	△29,123
無形固定資産の取得による支出	△6,549	△677
投資有価証券の売却による収入	195,994	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	164,978	△29,800
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△303,592	-
配当金の支払額	△193	△8
その他	180	△292
財務活動によるキャッシュ・フロー	△303,604	△300
現金及び現金同等物に係る換算差額	△41	△10
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△339,464	△116,195
現金及び現金同等物の期首残高	1,440,828	1,154,464
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,101,365	1,038,269

（４）中間財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

当社は、玩具及び乗り物類の企画・販売を事業とする単一セグメントであり重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

3. 補足情報

カテゴリー別販売の状況

① 中間会計期間売上高

(単位：千円)

カテゴリー名	2026年1月期 中間会計期間 (自 2025年1月21日 至 2025年7月20日)	2027年1月期 中間会計期間 (自 2026年1月21日 至 2026年7月20日)	前年同期比 (%)
国内販売	548,795	504,397	91.9
海外販売・ロイヤリティ収入	89,196	56,628	63.5
合計	637,991	561,025	87.9

(注) 2026年1月期までの一部商品の製造終了に伴い、従来のカテゴリー名「乳児・知育・構成玩具」、「メイキングトイ」、「その他」を「国内販売」に集約いたしました。それにより、前期区分の表示も組み替えております。

② 新発売商品及び主なリニューアル商品

商品名	標準小売価格 (税込)
Baby curiosityシリーズ「魔法のラトル」	¥1,100
〃 「じゃらりんパー」	¥3,300
〃 「つぶごのみ」	¥1,980
〃 「フタざんまい」	¥1,980
〃 「なめたりかんだり」	¥1,100
〃 「なめもみ花子3世」	¥1,100
〃 「むげんスライダー」	¥1,980
〃 「めちゃ押しリモコン」	¥2,420
〃 「キラコロチャイム」	¥1,100
〃 「なめられ太郎六代目」	¥880
〃 「マジミルミラー」	¥1,320
〃 「カッチポッチ」	¥1,100
〃 「赤ちゃん専用新聞® 第7版	¥1,100
〃 「アゲアゲきりん」	¥3,300
〃 「自分でラトル」	¥1,980
〃 「かじられっこ」	¥1,100
〃 「ベビ盛りディッシュ」	¥1,760
〃 「ちょいちょいフォン」	¥1,760
〃 「ころぶち大集合」	¥1,760
〃 「くねちやま」	¥1,760
〃 「おへそまる」	¥1,760
〃 「がぶり名人」	¥1,100
「1歳のファミリーピタゴラス」	¥7,150